岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　陰平川通常砂防事業に伴う業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　河川　砂防

ボーリング名	No.2	調査位置	広島県福山市駅町後地	北　緯	34° 23′ 42.6238″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和2年 6月15日～ 令和2年 6月16日	東　経	133° 22′ 26.6005″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 101.51m	角度	180 上 90 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	7.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：YBM-05型
				エンジン	ヤンマーディゼルNFD-9
				ポンプ	東邦地下工機GP-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD (%)	孔内水位／測定月日
	101.11	0.40		礫混り砂	暗茶								
1				粘土混り砂礫									
	99.91	1.60			灰茶褐								
2				砂礫									
	98.51	3.00											
3				礫混り粘土質砂	茶褐							C[0](100)	6/16 3.27
	97.61	3.90											
4				粘板岩	灰白青	w4	h1	D	V	d	D	C[0](100)	
5					w3			C	IV	b	CL		
					暗灰青	w5		E	V	d	D	C[0](100)	
6					～	w3		C	IV	b	CL		
						w5		E	V	d	D		
					灰白青	w3		C	IV	b	CL	C[0](100)	
7	94.51	7.00											
8													
9													
10													
11													
12													

記事

GL-0～3.9m　崖錐堆積物。
GL-0～0.4m　細粒砂～粗粒砂主体で、φ2mm～10mmの角礫を含む。葉や根が混入する。
GL-0.4～1.6m　φ2mm～20mmの角礫主体で細粒砂～粗粒砂を多く含み、粘土分を少量含む。
GL-1.6～3.0m　φ2mm～40mmの角礫主体で細粒砂～粗粒砂を多く含む。
GL-0.5～2.9mは含水が多い。
GL-3.0～3.9m　細粒砂～粗粒砂で、粘土分を多く含み、またφ2mm～20mmの角礫を少量含む。礫は風化しており、手で砕けるものもある。

GL-3.9～7.0m　基盤岩。
GL-3.9～5.0m　砂岩質優勢の粘板岩。角礫状～岩片状を呈し、亀裂が多く発達する。亀裂沿いに風化し、土砂を挟む。岩芯が比較的硬質でハンマーでたたくと亀裂沿いに砕ける。
GL-3.9～4.5mは比較的風化が進んでおり、角礫状主体である。
GL-5.0～7.0m　砂岩質と泥岩質が混在する粘板岩。角礫状～岩片状を呈し、40～50°の片理がある。亀裂が多く発達しており、亀裂沿いに風化している。岩片は比較的硬質で、ハンマーでたたくと亀裂沿いに砕ける。
GL-5.3～5.5m、5.75～6.0mは強風化しており粘土状～角礫状を呈し、指で強く押すと変形する。

標準貫入試験

深度－N値図

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
11	1.15	11		
	1.45	300		
7	2.15	7		
	2.45	300		
23	3.15	23		
	3.45	300		
50以上	4.10	50	190	
	4.29	190		
50以上	5.10	50	170	
	5.27	170		
50以上	6.05	50	180	
	6.23	180		
50以上	7.00	50	100	
	7.10	100		

原位置試験　室内試験

削孔状況

削孔日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
6/15	0	66／ケーシング	打込み／HW／DI	0	0	0	W3 0	0
	81			100	150	1	W2 10	10
	55							
6/16	41							